

大田高校PTA広報



泰山木

Taisanboku

第90号

平成23年3月1日

島根県立大田高等学校
PTA総務委員会



大田高校 美術教諭 杉谷 俊一

「絆」(人と人との強い結びつき)の大切さ

校長 岩井 元康

この冬は、例年になく大雪となりました。保護者の皆様やご親戚・お知り合いの方等で大雪の被害に遭われたり、なかなか除雪に手がまわらなくて日々の生活に困ったりした方もおられることと思います。心からお見舞い申し上げます。

さて、このような状況の中、マスク等を通じてクローズアップされたのは、大雪で「絆」の大切さが再認識されたことです。無縁社会と言われる昨今、地域で暮らす人々が協力して除雪作業や困っている人の手助けをしたというニュースが多く取り上げられました。たとえば、一人暮らしの高齢者や出産を控えた人の自宅前の道路を優先して地域の人々が協力して除雪したり、倒木の撤去作業や立ち往生した車の移動に自然発生的に人が集まったり、渋滞した車や立ち往生した列車の中の人に地域の住民が炊き出しをしたり、民家や仕事場のトイレを開放したりするなど、多くの心温まる人々の助け合いや支え合いの報道がありました。

今年の大雪による被害を目の当たりにして、自然の脅威と災害の恐ろしさを痛感するとともに、「絆」に基づいた助け合いや支え合いの大切さを再認識させられました。

この「絆」に基づく助け合い・支え合いの精神は、大田高校にも根付いています。クラスや部活動の仲間との絆、大高祭での各組の絆、家族や教職員との絆、そして卒業生や地域社会の方々との絆、それぞれの結びつきによって今の大田高校が成り立っています。

三年生の皆さんはこの三年間を通じてどんなことが今思い出されますか。勉強や進路のこと、部活動や友達との人間関係のこと等々が思うようにいかず悩んだり、夢や目標に向かうことを諦めてしまったりになったりしたこともあったと思います。そんなとき、先輩や友達からの励まし、あるいは先生、家族、親戚、地域の方からの援助が支えとなり踏み張ることができた経験はなかったでしょうか。これらの基盤となつていっているものの一つが人と人との強い結びつき「絆」です。卒業後もこの「絆」をいつまでも大切にしたいと思います。

最後に、三年生の皆さん卒業おめでとう。そして、保護者の皆様方のこれまでのご理解とご協力に感謝しますとともに、大田高校の発展のために今後ともご協力をよろしくお願い致します。

贈る言葉

保護者から

理を持って歩め

馬庭 泰斗

君が大田高校に入学して三年、卒業の時を迎えましたね。この三年間で多くの人と関わりを持ち、様々な影響を受けたりと与えたりしながら成長していった事と思います。明日からは親の影響下から少しづつ遠ざかっていき、自分の足で歩いていく事が多くなっていきます。

これからの四年間は社会人になるまでの最後の時間です。これまでの貴重な経験を生かし、さらに高度なステージにチャレンジして下さい。そこには予期せぬ困難等もあるかとは思いますが、不正など後ろめたさを感じることをせず理を持ってそれを乗り越えた時の達成感は、きっと君の自信と誇りになると思います。そして君の人生が有意義なものになる事を祈念します。卒業おめでとう。

志

岩谷 敏彦

三年前期待と不安を胸に、高校生活がスタートしました。勉強と部活の

二束のわらじを履き、時には部活をやめろ！ やめない！ で言い争いをした事もありました。しかし入学した時に部活をする決めていたあなたは、最後まで良く頑張りました。

将来どんな仕事に就きたいのかわからず心配していましたが、ようやく自分の進む道が見えたようで、少し安心していきます。自分が選んだ道、厳しく険しい道だとしても、部活をやめなかった様に諦めることなく志を持って突き進んで下さい。最後にお世話になった先生方初め、多くの方々に支えていただきました事にお礼申し上げます。ありがとうございます。

感謝の気持ちを忘れずに

小林 一矢

大田高校の活躍に、大田の町が燃えていた一年だったと思います。私は平成七年に帰省し、野球部のOBとして携わってまいりました。今年は、娘がマネージャー最後の年！表に出ない陰の役割、縁の下の力持ちのような部員正直、これで良かったのか？と考える事もありましたが、大田高校野球部で良かった、地域の方々にここまで支えられ、又この同級生と共に成長することができ、良かったとつくづく思いました。今年の野球部は、主力となる二人の選手は復活したものの、自己主張の強い選手が多く、なかなかまとまりがとれなかった。だが、三年の春

以降のまとまりは何だろうか？絶対的なキャプテンはいるが、誰もがキャプテンのような存在、自身の役割・するべき事を自覚し努力する姿に、目を見張るものを感じていました。目標一つ、そこからの夏の決勝戦までの戦い！何か溜まっていた物が爆発したような活躍！大田の町から「甲子園」という声や大田高校の校歌が今年こそと、大田高校フアンの期待のこもった応援を頂きました。結果は甲子園まで後一步の準優勝！すばらしい！全部員に感謝です。今まで沢山の方々にお世話になった事。野球を通じて選手達は、沢山の事も学べたのではないかと思います。今度は、あなた達のやり方で、大田高校や地域を、人との繋がり大切に、感謝し恩返しをしたいと思います。

感謝

森長 三雄

夢を持って入学した娘が、友達関係に心傷つき心配させたのもついこの間のような気がいたします。それがなんとか頑張れたのも、同じ目標に向かう吹奏楽部の先輩や友達がいたからだと感謝しています。コンクールでの演奏は、わずか十分でしたが、中国大会に二回出場できたのは皆で一丸となり、奏でようとする気持と努力があったからだだと思います。私達も客席で緊張と喜びを味わえたことに感謝します。「ありがとう」。さあ新たなスター

トです。色々な人との出逢いの中で、辛い事、嬉しい事が沢山あると思います。大高生として頑張れた事に自信を持ち、感謝の気持ちを持って頑張ってください。

「卒業おめでとう、応援しています」

男の「かきくけこ」

永成 勝之

双子の娘も昨年大田高校を卒業したばかりで、二年で三人の子供を送り出すことになりました。まるで打ち上げ花火のように子育ても終わりそうです。

娘たちと違い、家では無口で出不精の息子でしたが、中高と卓球部のキャプテンとして務めたのは本人にとって大きな自信になったと思います。これからも、ネットの動画サイトを見てニヤニヤしてばかりでなく、人と色々関わって切磋琢磨してほしい。

終わりに、武田鉄矢さんがテレビで話していた、男の「かきくけこ」を、うる覚えだが贈ります。

か：甲斐をもて（生き甲斐など）
き：奇異であれ（人と一緒にだめ）
く：悔いを残すな
け：敬を重んじろ（敬う心）
こ：恋をしろ

「卒業おめでとう」



三年生からのメッセージ



高校生活を振り返って

一組 森山 修嗣

私の高校生活を振り返ると、自分のやりたいことを好きなようにやらせてもらえた一言です。是れゆえ、今、後悔という感情を持たずにいられます。このことは大変幸せなことなのだと思います。そのような環境や、私の行動を理解していただいた人に感謝せずにはいられません。私はこの三年間を誇りにし、これからの人生に生かしていければ幸いだと思っています。

二組 神谷 理紗

私の高校生活三年間はとても充実したものでした。部活動では目標としていた中国大会出場を果たす事ができ、一緒に頑張ってきた最高の仲間に出会うことが出来ました。

また学校行事は楽しい思い出ばかりで、これからは一生の宝物です。今まで私を支えて下さった先生方、友達、そして家族に感謝しています。ありがとうございました。



三組 浜 裕太郎

私の高校生活の時間は野球で過ぎていきました。そして「感謝する心」を身につけることができた時間でした。両親にはもちろんのこと、私たちに協力、応援をいただいた人々に、本当に感謝しています。同時に、仲間に出会えたこと、これは私の財産です。いつの日にか、みんなが集まり、また一緒に野球をするのが私の夢です。みんな、本当にありがとう。

四組 竹下 聡美

私の高校三年間は勉強や部活動、学校行事などとても充実していました。友達や部員と共に目標に向けて頑張る中、衝突したり互いに励まし合うことで成長することができました。また、色々な面で担任の先生を始め、多くの先生方にお世話になり、とても感謝しています。様々な人と関わることで私の高校生活は毎日が楽しい日々でした。ありがとうございました。

旅立ちによせて

二組 宇谷 知絃

私は理学療法士になるために、春から大学生活をスタートさせます。文系から理系へ進学するので不安はありますが、夢を実現させるために精一杯努力していきたいと思っています。

お世話になった先生方、応援してくれた友達や家族そして他にもたくさん

の人に支えられてきたことに感謝し、夢に向かって一生懸命頑張っていきたいと思っています。

三組 竹内 菜々海

私は将来看護の道へ進むために大学四年間勉学に励みます。楽しい時は共に笑い、辛い時にはいつも側にいてくれた友達、勉強だけでなく様々な相談にのってくれた先生方、私の気持ちを一番に考えてくれた両親など、すべての人に感謝しています。この感謝を忘れずに、より自分を成長させるために多くの人と関わり、友人の輪を広げていきたいと思っています。

五組 高橋 将子

高校ではいろいろな経験をしました。必要なことなのか疑問に思うこともあったけれど、きつと何かの形で自分の力になっていったのだと思います。そしてこれは先生や親にさせてもらったことであって、これからは自分で経験を積んでいかなければなりません。私は農業を通じて叶えたい目標があります。そのために、高校で得たことを生かして、どんなことにも挑戦していきたいです。

後輩へのメッセージ

一組 高木 明衣

私は文武両道を心掛けていました。部活をやっているとどうしても勉強時

間は少なくなりますが、その分通学時に予習復習していました。また、部活でも悩んだり、つらいこともあったけど、その分だけ受験勉強に通じる体力や忍耐力、精神力を得る事が出来ました。文武両道は大変ですが、得るモノもあるので、最後まで諦めず頑張ってください。

四組 山下 翔

これから先、皆さんは受験という大きな山に立ち向かうはずですが、でも、恐れなくてください。今からでも基礎知識、体力、精神力を成長させる事で、皆さんは合格という頂上に到達する事が出来ます。登山は準備段階で勝敗が決まります。

そして、試験の傾向は、新燃岳のように、急に変化するかもしれませんが、その時は、「皆同じ境遇だ」と考えたと耐えられます。

山行は団体戦です!!皆頑張れ

五組 岡田 有正

高校生活は、長いようでとても短いものでした。多くの人がそう感じると思います。だから、勉強や部活、行事などに一生懸命取り組んでほしいです。高校生活の三年間でしかできないことを中途半端にすると、あとで後悔すると思います。二度と戻って来ない時間だからこそ、何事にも本気になって取り組み、残りの高校生活を後悔なく過ごしてほしいと思います。

新たな旅立ちに向けて - 3年生に贈る言葉 -



一組

担任 大野 陽太
副担任 増野 光子

苦 労

担任 大野 陽太

三年生の皆さん、卒業おめでとう。
三年前、皆さんは希望を抱いて大田高校
に入学しましたね。でも、多くの人は
「どうして自分は〇〇がうまくいかない
んだ」という悩んだのではないですか。
思ったように成績が伸びないとか、部活
の大会でなかなか勝てないとか、進路
が決まらないとか。

古代中国の告子は「天が人に大きな仕
事を与えるときは、心身を苦しめ、わざ
と邪魔をする」という意味の言葉を残し
ています。告子の言葉を借りるならば、



色々な苦しみは天が皆さんに何か大きな
仕事を与え、成し遂げさせようとしてい
るということになります。

これから皆さんは、社会に出て様々な
経験することになります。高校時代の
ものとは比べものにならないくらい苦し
みを今後経験する人も多いでしょう
(でも楽しみも多いですが)。そんな時
に、この告子の考え方を思い出して、苦
労に負けないで生きていって欲しいと思
います。

最後に、今、私が大田高校の教員とし
て皆さんを送る事ができるのは、皆さん
の支えがあつたことだと痛感していま
す。ありがとう。じゃあ、元気で。

二組

担任 有川 哲子
副担任 柳樂 淳一

楽しかった!!二度目の高校生活ありがとう!

担任 有川 哲子

三年前、旧一年四組のクラスには、なぜ
か毎年恒例、個性豊かで元氣いっぱい
のキミ達が集まってきました。教科書や何
か大きく膨らんだザックの重みにおぼつか
ない足元、新しい授業で涙が出たり、最初
は「腰に」言いながらも、すっかり魅せら
れていたソーラン節。高校生活の醍醐味を
体感させてもらったね。

二年二組は入院リレーでスタート。結局
六月まで全員揃わず。しかし、担任は勝手
に学園祭で大フィーバー。楽しませてもら
いました。ステージでは高校時代に面談で



即却下された。「歌のお姉さん」がよみが
えり、ナニコレでは(美貌の故か?クレオ
パトラとよく間違われましたが)、ツタン
カーメンに大変身。でもあの赤絨毯に乗る
直前、恥ずかしくて心臓が飛び出しそう
でした。いっぽうキミ達は「ジャマイカ賞」
で、結果よりも「いかに取り組んだか」の
方が充実感を得られるという大切なことに
気づきましたね。

そして今年の三年二組は、球技大会に体
育祭、部活動にと大活躍でした。そして
迎えた受験シーズン。秋以降連日の補習や
模試など、苦しいことにはなかなかインジ
ンがかからなかったけれど、なんとかここ
までたどり着けたのは、それまで培ってき
た団結の力があつたからです。そして最後
の追い込みでは、ぐうんと力がつきました
ね。CT試験をも明るく乗り切ろうとする
キミ達なら、これから少々のことがあつて
もだいじょうぶ。私が保証します!!

五組

担任 才木 克宏
副担任 辻 雅人

我 慢

担任 才木 克宏

私はスキーがスキである。教員になつ
てから始めたのだが、結構はまっていた。
あれは最初の子供が生まれて数ヶ月たつ
た、絶好のスキー日和の休日だった。当
然行きたいという強い欲求に駆られた。
お互い実家から遠く離れたアパートに住
んでいたの、母子を残して行くのはた
めらいもあったが、思い切って「行って
いい?」と聞いてみた。少し躊躇した様
子もあつたが、いいよと言ってくれたの
で、勇んで出かけて行った。

三組

担任 角田 裕之
副担任 井戸 朋子

「ブレない心」

担任 角田 裕之

岡田JAPANも立正大湘南高校サッカー部も、周囲から様々な批判を受けながらも結果を出しました。似たような立場にしながら感心している場合ではありませんが、その強さの秘訣のひとつは「貴性」にあると思います。

現代は世の中が激しく変動し、我々も常に変化を求められる時代です。また人は新しいものに触れたり、周りから

反対されたりするといった方向を変えてしまったり、楽な方へ逃げてしまいがちです。しかしその中であって自分自身、人生で費き通せる何かを作り、磨いてほしいと思います。一つのことを通すには経験、我慢、信念などなど強い人間性が必要です。目先の損得に惑わされてはいけません。失敗することは問題ではありません。しかし、常に前向きでひたむきで、そして周囲が見えていなければならぬと思います。長い人生で作り上げていくその「何か」こそ、あなた自身の素晴らしい武器であり、財産となり、人生での武器になると思います。

卒業おめでとう。お互い成長した姿でまた会える日を楽しみにしています。

四組

担任 柿田 純子
副担任 伊藤 裕子

『一期一会』

担任 柿田 純子

三年生の皆さん、「卒業おめでとう」ございます。一年二組の担任となり、一年、三年と皆さんと一緒に進級してきました。私にとつて、とても思い出深い三年間となりました。

入学式の日、二組の人たちにこんな話をしたことを覚えているでしょうか？「ここで出会えたことは偶然であり、奇跡です。大田高校に入学し、一年二組にな



滑り始めてすぐ、リフト乗り場の支柱に張り紙がしてあることに気が付いた。当時は携帯電話もない頃なので、緊急の連絡のためよく見かけるものだった。良く見るとそこには、なんと私の名前が書かれていた。「〇〇へ。子供が血を吐いた、至急帰れ」さっきまであんなに元気だったのにどうしたのだろう、と考えるつ帰路を急いだ。帰って、吐いたという血を見せてもらったところ、ガーゼにうっすら血がにじんでいるだけだった。思わずむっとして文句を言おうとした瞬間、私は気付いた。「やはり行くべきではなかった」と。

しばらくして、どうしても気になっていたことを聞いてみた。「どうして僕が行ったスキー場が分かったの？」「ああ、大丈夫だよ、あの辺のスキー場、全部電話しておいたから」……

男子諸君、男は我慢である。



る確率は、いろいろな要因が重なって起こるので、単純に計算では出ませんが、とんでもない数字になります。また、私が大田高校に来ていなければ、今の夫と結婚していなければ、教員になっていなければ……皆さんと出会うことはなかったかもしれません。この貴重な出会いを大切に、楽しい高校生活にしましょう！」と。卒業を目前にした今、高校生活を振り返ってみて、充実した日々だったでしょうか？私は、皆さんと出会い、とても貴重な体験をさせてもらいました。感謝しています。ありがとうございます。

これから先、まだまだ様々な人と出会うことでしょう。決して無駄な出会いなどありません。すべての出会いを大切に、成長し続けてください。

【学校評価アンケートの結果について】

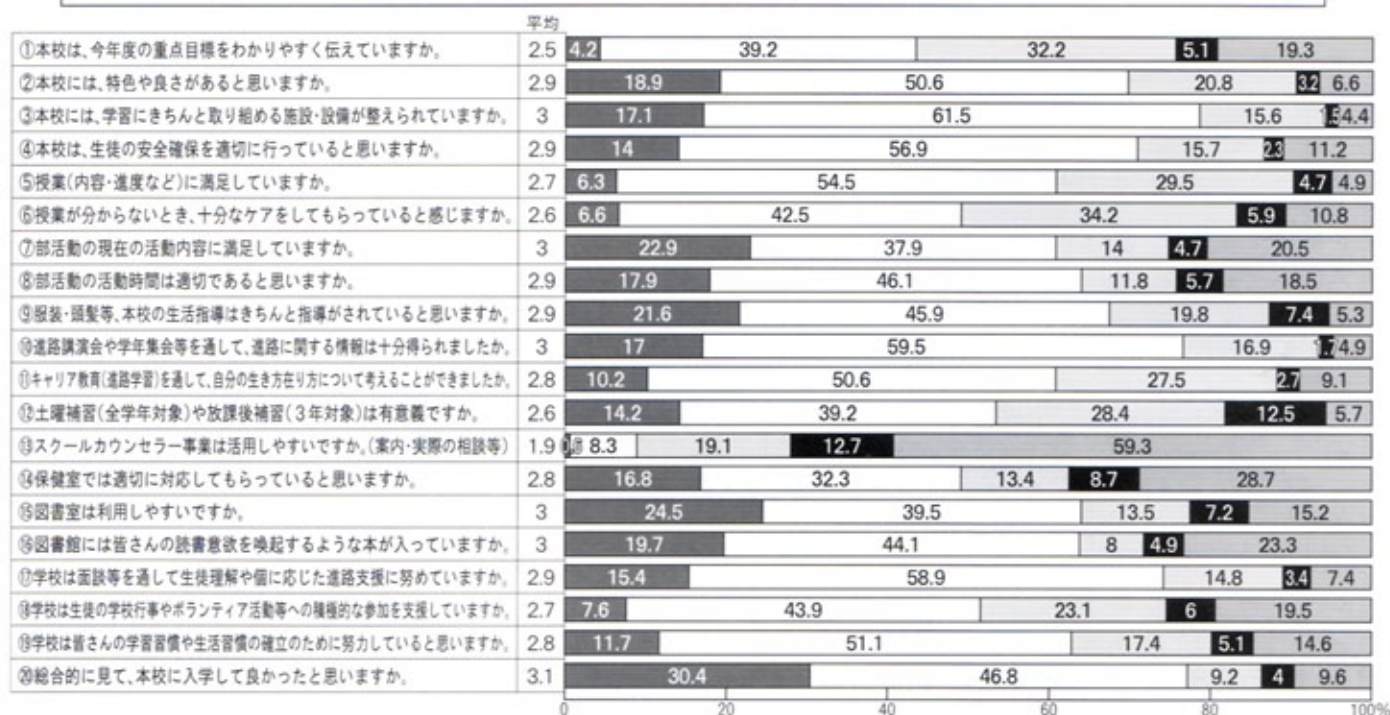
本年度の学校評価アンケートの結果をお知らせします。「学校評価」の制度は、本年度の本校の教育活動を、生徒・保護者・教職員が様々な項目で評価し、その結果を次年度の目標設定や改善策に生かして、より充実した教育活動の実践につなげていくものです。

今後は、このアンケート結果をふまえて、各担当分掌、学年会で反省と改善策を検討し、2月下旬の学校関係者評価委員会の討議を経て、3月中にとりまとめて公表いたします。

保護者の皆様にはアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

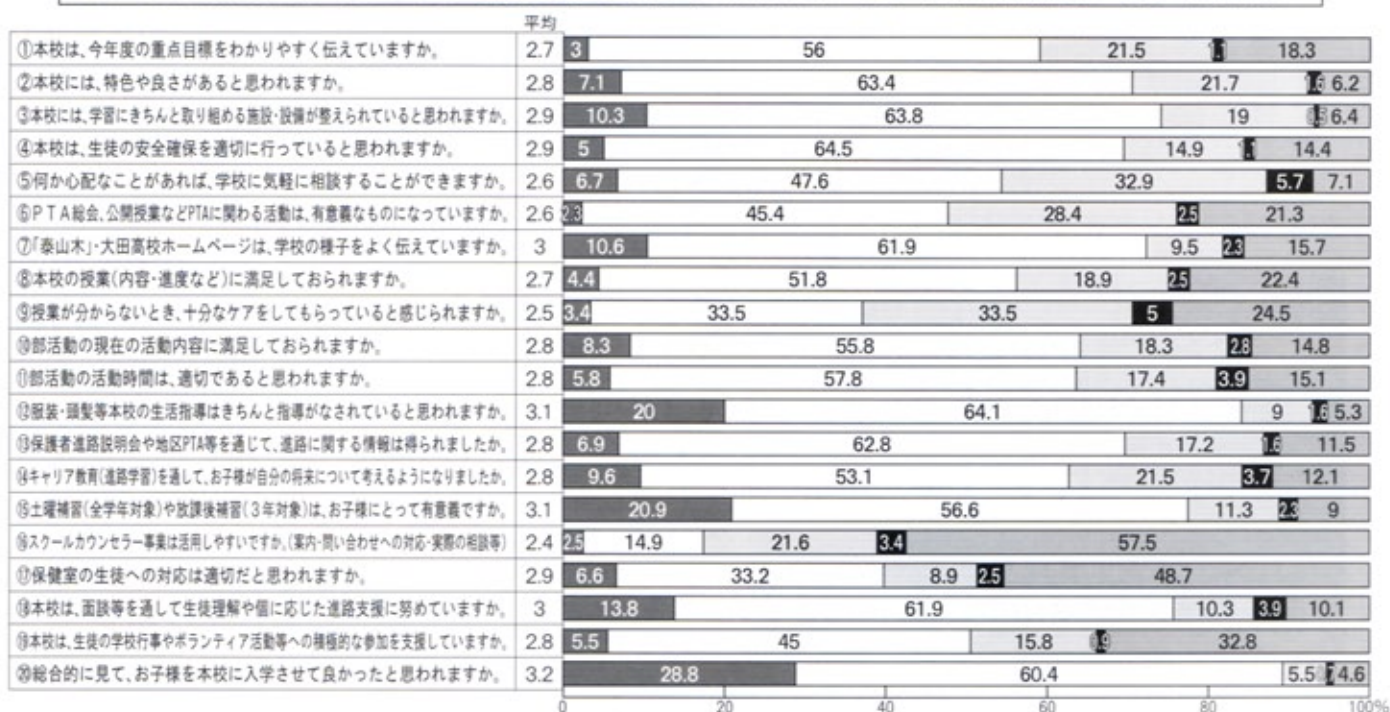
平成22年度 大田高校に関する生徒によるアンケート(全体:531名回答)

■4:とてもそう思う □3:だいたいそう思う □2:あまりそう思わない ■1:全くそう思わない □0:わからない



平成22年度 大田高校に関する保護者によるアンケート(全体:437名回答)

■4:とてもそう思う □3:だいたいそう思う □2:あまりそう思わない ■1:全くそう思わない □0:わからない



平成22年度 学校評価(教職員による自己評価) (全体:41名回答)

■ 4:十分できている □ 3:だいたいできている □ 2:やや不十分である ■ 1:不十分である ■ 0:わからない

		平均				
学校運営全般	①文武両道の追求	2.7	65.9		29.3	2.4 2.4
	②部活動を充実させ、活性化させることができたか	2.8	7.3	70.7		14.6 7.3
	③学校行事へ主体的に参加させ、連帯感を育むことができたか	3	9.8	85.4		4.9
	④自他の生命を尊重する態度を育成することができたか	2.9	9.8	68.3		17.1 4.9
	⑤爽やかな挨拶と身だしなみを奨励することができたか	3.1	24.4	58.5		17.1
	⑥オープンスクール等を活用して、本校の魅力をPRできたか	2.8	2.4	58.5		22 17.1
	⑦ホームページを充実させることができたか	2.4	26.8	36.6	2.4	34.1
	⑧安全な環境づくりを推進できたか	2.9	7.3	70.7		17.1 2.4 2.4
	⑨環境の美化に努めたか	2.9	9.8	65.9		24.4
総務部	①学校組織の有機的な運用	3.1	14.6	78		4.9 2.4
	②保護者・地域社会への広報と連携	3	19.5	68.3		9.8 2.4
	③PTA評議委員会・PTA総会・地区PTAで、保護者との連携ができたか	2.9	4.9	70.7		12.2 2.4 9.8
	④授業料減免・奨学金の適切な情報を提供し、生徒個々の教育権に配慮したか	3.2	19.5	68.3		2.4 9.8
	⑤研究授業・公開授業の実施による学習指導の研究と共有化を図ったか	2.6	4.9	58.5		31.7 4.9
教務部	⑥道徳指導部・教科会・学年会と連携し、学習指導の体制を整えたか	2.8	9.8	63.4		22 4.9
	⑦授業時間の確保に努めたか	3.1	22	65.9		9.8 2.4
	⑧新教育課程の編成に向けて、検討・改善に努めたか	2.8	12.2	61		22 4.9
	⑨中高の連携と生徒募集	3	17.1	56.1		17.1 9.8
	⑩生徒に模擬試験前後における準備・見直しを徹底させたか	2.9	9.8	63.4		17.1 9.8
生徒指導部	⑪効果的な補習の編成により受験に対応できる学力保障を図ったか	3.1	19.5	68.3		7.3 4.9
	⑫他校との連携を深め、道徳情報を共有し、指導方法の改善・工夫を図ったか	2.9	9.8	61		14.6 2.4 12.2
	⑬道徳講演会や図書室の図書などを充実させたか	3.3	26.8	58.5		2.4 12.2
	⑭教職員の道徳指導に関する研修への支援に努めたか	3	17.1	53.7		19.5 9.8
	⑮ホームページを利用した保護者への道徳情報の提供に努めたか	2.4	4.9	19.5	26.8	7.3 41.5

0 20 40 60 80 100%

平成22年度 学校評価(教職員による自己評価) (全体:41名回答)

■ 4:十分できている □ 3:だいたいできている □ 2:やや不十分である ■ 1:不十分である ■ 0:わからない

		平均				
進路	③総合的な学習やLHRを利用したキャリア教育の推進	③総合的な学習の時間やLHRを活用した進路指導を研究したか	3	14.6	58.5	12.2 14.6
保健教育相談部	①心身の健康の保持・増進	④各種検診や健康観察、面談などを通じ、生徒への心身の健康状態把握に努めたか	3.2	22	73.2	2.4 2.4
		⑤講演・保健だよりなどにより心身の健康の増進に関する啓発はできたか	2.9	9.8	70.7	17.1 2.4
		⑥生徒保健委員会の活動は適当だったか	2.9	9.8	46.3	9.8 4.9 29.3
	②生活環境の維持・向上	⑦清掃区域・分担・用具の点検・補充は適当だったか	3.1	17.1	73.2	4.9 2.4 2.4
体育部	①体育的行事のスムーズな運営	⑧学年部・担任・スクールカウンセラーとの連携がとれ、生徒・保護者への効果的支援ができたか	3.3	24.4	61	2.4 12.2
		⑨体育的行事がスムーズに行えたか	3.2	22	65.9	4.9 7.3
図書視聴覚部	①生徒が活用しやすい図書館の構築	⑩館内の環境を整備し、生徒の図書館利用を推進したか	3.2	24.4	61	4.9 9.8
		⑪生徒の読書意欲を喚起できたか	3.2	26.8	56.1	9.8 7.3
		⑫図書委員会の主体的活動を支援したか	3.2	22	61	2.4 14.6
	②視聴覚教材のスムーズな使用	⑬教材の管理・点検に努め、授業・行事等において教材が支障なく使用できたか	3	7.3	73.2	4.9 2.4 12.2
寮務部	①自主的・自立的な集団生活	⑭基本的な生活習慣を身につけさせることができたか	3	7.3	68.3	7.3 14.6
		⑮規則・規律を遵守して生活できるよう支援したか	3.1	12.2	68.3	4.9 14.6
	②コミュニケーション豊かな雰囲気	⑯教職員と寮生、または寮生同士の関係づくりを行ったか	3.1	12.2	58.5	4.9 24.4
	③意欲的な学習への支援	⑰学習時間の視察や学習指導を積極的に行ったか	2.8	7.3	48.8	19.5 24.4
人権同和教育	④健康で明るい生活ができる環境整備	⑱衛生管理を徹底し、食中毒などの事故を防ぐことができたか	3.2	24.4	53.7	4.9 17.1
		⑲清掃活動等で自主的な環境整備に努めさせることができたか	2.7	4.9	48.8	26.8 19.5
1年学年会	①基本的な生活習慣と自立的な生活態度の育成	⑳LHR指導や人権意識アンケート・講演会を通じて、生徒の人権意識を高めていくための取り組みをスタートできたか	3.3	36.6	56.1	7.3
		㉑LHR授業や授業参観や教職員研修(ワークシート調査・講演会等)を通じて、教職員が全学年で人権意識を高めていくための取り組みをスタートできたか	3.2	31.7	58.5	7.3 2.4
2年学年会	②学習習慣の確立と学力の向上への支援	㉒挨拶・時間厳守などの基本的な生活習慣の育成に努めたか	2.8	4.9	68.3	17.1 2.4 7.3
		㉓日常的な学習習慣や自発的な学習意欲の向上に取り組んだか	2.7	2.4	63.4	19.5 4.9 9.8
	③豊かな人間関係の確立の支援	㉔個人面談等を通じて生徒理解や進路支援に努めたか	3.2	19.5	56.1	2.4 2.4 19.5
		㉕諸活動を通じ、クラスの連帯感や豊かな人間関係の育成に努めたか	3	9.8	73.2	2.4 2.4 12.2
3年学年会	①自立的な生活習慣の確立への支援	㉖挨拶や服装、時間厳守などの基本的な生活習慣の確立や、自他の生命や人権尊重の態度の育成に努めたか	3	9.8	68.3	7.3 14.6
		㉗日常的な学習習慣の確立や個々に応じた学習支援を行ったか	3.1	14.6	68.3	2.4 14.6
	②将来考えた進路目標の実現	㉘生徒面談や学年集会、学年通信によって進路意識の啓発や進路支援を行ったか	3.2	19.5	61	19.5
		㉙挨拶の励行につとめさせたか	3.2	22	65.9	2.4 9.8
3年学年会	③人権尊重に基づく調和のとれた心身の発達	㉚遅刻・欠席の防止につとめたか	3.2	14.6	68.3	17.1
		㉛面談を積極的に行い、目標実現に向かう支援を行ったか	3.2	19.5	68.3	2.4 9.8
3年学年会	③人権尊重に基づく調和のとれた心身の発達	㉜学校行事・生徒会行事・HHR活動・ボランティア活動等への積極的な取り組みを奨励・支援したか	3.1	19.5	65.9	7.3 7.3

注)アンケート・自己評価の平均値は、4段階評価のものです。

健闘光る

(12月・2月の部活動)

◆文化部◆

【囲碁・将棋】

▽中国高等学校将棋選手権大会
女子個人戦(スイス式リーグ5回戦)
11人中

山田智都 2勝3敗 9位
岩石静果 2勝3敗 7位

▽中国高等学校囲碁選手権大会

男子団体戦(リーグ5回戦)

1回戦 大田3-0境港総合(鳥取)

2回戦 大田0-3修道(広島)

3回戦 大田2-1倉吉東(鳥取)

4回戦 大田1-2山口(山口)

5回戦 大田3-0玉野光南(岡山)

3勝2敗 勝ち数差で準優勝

▽第19回全国高等学校将棋新人大会

女子個人戦

予選リーグ

岩石静果 Hブロック2勝1敗

予選通過 決勝トーナメントへ

山田智都 Oブロック1勝2敗

予選敗退 予選敗退者による

敢闘賞争奪戦へ

決勝トーナメント

1回戦

岩石静果 ○× (福岡東)

2回戦

岩石静果 ×○ (香川中央)

2回戦敗退 ベスト32

敢闘賞争奪戦トーナメント

1回戦

山田智都 ○× (富山高専)

2回戦

山田智都 ○× (高松第二)

決勝戦

山田智都 ○× (花巻南)

敢闘賞 獲得

▽第34回全日本アンサンブルコンテスト中国大会

打楽器五重奏 銅賞

【文芸・報道】

▽県児童・生徒学芸顕賞

受賞

▽美文連石見地区彫刻コンクール

7名入選

▽第43回高校美術展

絵画の部入選12点

デザインの部入選6点

◆運動部◆

【柔道】

▽新人柔道大会

団体 8位

個人 「81kg級」森山祐太郎

3位

▽高校柔道選手権大会県予選

団体 8位

個人 「81kg級」森山祐太郎

(ベスト8)

▽県選手権

男子個人

林、三浦、石飛(一回戦)

漆谷、津田(二回戦)

竹下(五回戦) ベスト16

新人戦シード権獲得

女子個人

渋谷、木村(二回戦)

田邊、岩野、三上(三回戦)

男子団体

二回戦 大田1-松江工業

2人残り負け

女子団体

一回戦 大田1-松江農林

5人残り勝ち

二回戦 大田1-大社

1人残り負け

▽県新人戦

男子個人

津田(一回戦)

漆谷(二回戦)

竹下(三回戦) ベスト16

女子個人

木村、三上(二回戦)

男子団体

一回戦 大田3-2飯南

二回戦 大田0-4松江東

女子団体

一回戦 大田2(4)-2(3)松江南

二回戦 大田0-3大社

▽新人戦

大田1-3 石見智翠館

▽県コースリーグ3部

大田0-2 吉賀

大田3-0 江津工

大田1-0 浜田

大田1-0 浜田商

大田1-1 明誠B

▽男子バスケット

▽県新人大会

一回戦 大田60-80 浜田商

▽女子バスケット

▽石見地区大会

大田55-80 明誠

▽県新人大会

一回戦 大田82-45 三刀屋

二回戦 大田32-90 松江商業

▽男子バレー

▽県新人大会

予選リーグ

大田0-2 松江北

大田0-2 大東

▽女子バレー

▽県新人大会

グループ戦

大田2-1 情報科学

大田2-0 益田

ベスト8決定戦

大田0-2 松江商業

▽登山

▽全国高校総体

32位

▽県新人登山大会

6位

▽中国登山大会

8位



人権・同和教育の 研修(大阪)に参加して

「差別する人がいるかぎり、差別はなくなる。人権とは、人間が生きてきた努力の証である。」
「リパティおさか」でガイドの方から最初に言われた言葉です。
差別や人権への認識は、どうしても意識の奥に埋もれがちになりますが、「リパティおさか」での展示や資料は、差別の歴史や実態に向き合い、その不条理さを知ることができ、改めて差別について考えるきっかけとなりました。差別の対象になってきた人の体験や実態、人権問題に対する切実な訴えを知ることによって、我々は差別に対する正しい認識をもつことができるように思います。
差別をなくしてゆくためには、普段から「差別はいけない」という意識を持ち、社会の一人ひとりが差別や人権を意識し、みなで差別のない社会をつくる取り組みに参加しなければならぬと感じました。

詳細につきましては、先日配布されました資料をご覧ください。





保育実習



寒稽古

